

京都市未来こどもはぐくみプラン（仮称）原案（重点課題「安心して子育てできる幼児教育・保育の充実」）に関して幼児教育・保育部会でいただいた御意見について

No.	ページ	第8回部会においていただいた御意見の内容	御意見を受けての対応
1	4	子育てをしながら就労しやすいことに視点が置かれているが、ワーク・ライフ・バランスのライフに重点が置かれるべきである。例えば「子育てしながら働き続けられる条件整備を進めていく必要がある」を、「働きながら子育てにしっかり向き合える条件整備をしていく」というように修正できないか。	文中のワーク・ライフ・バランスの推進に係る部分に加筆を行い、子育てしながら働き続けられる条件整備との両面を取り組む必要があることがわかるように修正しました。
2	6	山間地域に認定こども園を作るのではなく、山間地域に仮に保育所ないし幼稚園が1つしかなかったら、その園が可能であれば1号、2号、3号ともに受けられるような施設に変わっていければ良いというのが認定こども園なので、誤解のないような表現にしていきたい。	御意見を踏まえて修正しました。
3	10	認定こども園というのは新規事業で参入するようなものではなく、既存の幼稚園、保育所がその機能を増やしていく施設なので、「新制度の施行を機に、（中略）新たな事業者の参入も予測されることから、（中略）幼児教育・保育の水準を担保していくための取組が必要となります」との記載は、あたかも新規参入の企業が新しい認定こども園を作る可能性があり、その質を担保しなくてはならないと読み取れるので、誤解のないような表現にしていきたい。	御意見をいただいた箇所については、これまで認可幼稚園や認可保育所を中心に対応してきたという本市の特徴を踏まえて、今後も適切な水準を維持していくということが、もともとの主旨ですので、そのことがわかるように修正しました。
4	13 ・ 15 ・ 17	市営保育所のあり方のところの主な取組に、認定こども園に移行する私立幼稚園、民間保育園に対する支援とあるが、私立幼稚園への支援は必要ないので、ここの表現は考えていただきたい。	御意見を踏まえて修正しました。

5	18	今の文面だと、病児保育の拡充よりも、仕事と家庭生活等の両立支援の方が大事と読めるので、表現を修正してほしい。	御意見を踏まえて修正しました。
6	27	障害のある児童への対応として新規に居宅訪問型保育事業が設けられたことが嬉しい。 就学支援シートがあることにより、障害のある児童が保育所や幼稚園から小学校へ就学したときに、色々と本人のことを理解してもらえているので嬉しい。	障害のある児童等が、障害等に応じたきめ細かな支援を受けながら、幼児教育・保育を利用できるよう、引き続き必要な取組を進めて参ります。
7	27	地域子育て支援の充実を図ることは、幼稚園の入園児が増えたり、子どもを生き育てやすい環境になったり、就労していた人が下の子どもが産まれたときの行き場になったりと、非常に効果が高いと感じている。	地域子育て支援の重要性について加筆を行いました。(22ページ)
8	—	「市民のニーズ」と言うときに子どもが市民として一番に考えられるべきであり、全体を通してその視点で表現等を考えることが必要である。	「京都市未来こどもはぐくみプラン」(仮称)については、子どもたちの今と未来のため、市民共通の行動規範として制定した「子どもを共に育む京都市民憲章」の理念の下、京都の未来を託す子どもたちを健やかで心豊かにはぐくめるまちづくりを進めることを基本理念とします。今後、プラン全体の取りまとめの中で、表現等については検討してまいります。
9	—	仕事よりも子育てに専念したいという方へのサポートについてこのプランの中に取り込むべきである。	子育てに専念されている方も対象に含まれる地域子育て支援の重要性について、加筆を行いました。(22ページ)
10	—	京都ならではの新制度に対応する取組についての記載がほとんどない。大事な取組のところのトップに、そういうものが欲しいと感じる。例えば、仕事をしている方も手を振って早く帰れるような社会をつくるというようなことを書けないのか。	これまで認可幼稚園・認可保育所を中心に幼児教育・保育ニーズに対応してきたという本市の特徴を踏まえて、今後も適切な水準を維持していく仕組みとすることがわかるように修正しました(10ページ, 13ページ) 子どもに向き合える環境整備等のワーク・ライフ・バランスの推進については、主に「次世代を育むすべての家庭を支援し

			支え合えるまちづくり」の章で記載することとしております。
1 1	—	<p>保護者のニーズに応えるという方向が強調されているが、親が親としてきちんと育ていけるよう、ニーズに応えることだけではなく、子育てにしっかりといろいろな人が関わっていき、しんどいことも含めて一緒に歩いていくというようなニュアンスをぜひ出してほしい。</p>	<p>子どもに関わる施策の根幹の理念であり、「京都市未来こどもはぐくみプラン」(仮称)の基本理念に据えている「子どもを共に育む京都市民憲章」において、子どもを育む喜びを感じ親も育ち学べる取組を進めることを行動規範の1つとしております。</p> <p>「親育ち」については、別の章にも記載予定ですが、幼稚園、保育所等においても、子育て相談や子育て講座等を通じて、親支援に力を入れていることから、地域子育て支援に関する部分に加筆を行いました。(22ページ, 25ページ, 27ページ)</p>
1 2	—	<p>経済的にも環境的にも厳しくなっている保護者の状況を、保育現場も行政等もきめ細かくは把握しきれていないと思う。</p> <p>(1つ前の議題での)お二人の保護者の方からの実感のこもった意見(子どもの預け先をどこにするかを考えるとき優先するのは、(ア)受入条件(場所, 時間, 料金, 給食の有無等)である。/(イ)保育内容である。)が印象的だった。</p>	<p>今後とも保護者の状況やニーズの把握に努め、適切な施策につながるよう検討してまいります。</p>
1 3	—	<p>公立幼稚園, 公立保育所の保育をこれまで担ってこられて方々の専門性や蓄積を活かさない手はない。子ども主体の子どもを主語とした今後の展開が生まれてくることを願っている。</p>	<p>幼稚園, 保育所等においては、日々の保育実践の積み重ねに加え、職員の専門性を活かした地域子育て支援を実施するなど、幅広い子育て家庭への支援に努めているところです。</p> <p>また、市立幼稚園, 市営保育所等がそれぞれ長年培ってきた幼児教育・保育の理念を融合した本市独自の「幼保連携型認定こども園教育・保育課程編成要領」の策定を行います。</p> <p>新制度においては、既存の認可幼稚園, 認可保育所以外の新たな事業者による幼児教育・保育サービスの提供も見込まれることから、今後とも適切な幼児教育・保育水準を維持向上していくための取組を進めて参ります。</p>